



「子ども食堂」
のスペシャリスト
あの!!!

福岡市の公民館に、湯浅 誠さんが行ってみた!

黄色信号の子ども に地域ができること



日本子ども
7人に1人が相対的貧困
(225万人)

この課題に向き合うにあたり、私たちは「子どもの生活圏に公民館があることの意義」と「全国的にも数多くの公民館が設置されている」福岡市の状況に着目しました!!!



<講演者> 湯浅 誠さん

NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長。内閣府参与、法政大学教授を歴任し、2019年より東京大学特任教授。2008年末に日比谷公園で行われた「年越し派遣村」の村長としても知られる。埼玉県所沢市在住。

2023.2.23(祝)

17:00~18:00
(16:30開場)

場所:別府公民館 講堂

福岡市城南区別府1丁目15-19
(092-821-7489)

※駐車場はありません。ご来場の際は最寄りの公共交通機関をご利用ください。

定員:(会場参加)先着30名
(オンライン(ZOOM)参加)先着100名

参加申し込み時にどちらかお選びください。

参加ご希望の方は、右のQRコード
又はsoe@cis.fukuoka-u.ac.jp
へ、お名前・ご住所・ご連絡先等
お知らせください。





子どもたちの声 …聴こえてますか？

そもそも「相対的貧困」とは？

その社会の生活水準の中で**大多数よりも貧しい状態**のことを言い、日本の場合、単身者世帯で約124万円／2人世帯約175万円／3人世帯約215万円／4人世帯で約248万円以下の暮らしになります。

特に**一人親世帯では、その約半数が該当**しています。

「相対的貧困」の何が問題？

赤信号の子どもたち（絶対的貧困）は社会のセーフティネットを通じて、ある程度救えます。しかし、右のような**黄色信号の子どもたち(相対的貧困)**は「**見えない貧困**」であり、見過ごされ、気づかれないケースがほとんどです。特に**行事などを通じた社会体験や、同世代の子たちとの交流が大幅に不足**することによる「**機会損失**」は一人ひとりの子どもたちの将来に大きくマイナスの影響を与えるだけでなく、**連鎖による社会的損失**へと繋がっていきます。

「子どもの貧困を科学する」は、産学官の連携事業である「**福岡未来創造プラットフォーム事業**」の一環として実施し始めて今年で4年目になります。

子どもの貧困に関する学習を通じて、福岡市内に、この問題に関心のある人々を増やし、問題解決にむけたネットワークを拡げ深めることを目的に活動を行っています。

毎日同じ服しか着れない
家事で勉強時間が十分とれない
必要量の食事を満足にとれない
一人で家にいる時間が長い
(親と話す時間が少ない)
(友達と遊ぶ時間がない)
お祭りに行ったことがない
海や山に行ったことがない
学校給食で繋いでいるので、
長期休みに体重が落ちる
支払いが難しいため、
満足な医療治療が受けられない
ユニフォーム等が揃えられず、
部活ができない



自己肯定感が低くなる
家でも学校でも居場所がない
貧困の連鎖
ヤングケアラー
ワーキング・プア

ホームページからお申込できます

🔍「福岡未来創造」で検索 ×



主催：福岡未来創造プラットフォーム
共催：福岡市



実施：子どもの貧困を科学する2022 子ども・育ち班